

江戸図屏風（国立歴史民俗博物館蔵）

当館の常設展示室・近世のコーナーでも、「江戸図屏風」は一際目を引く。右隻・左隻それぞれが、高さ162.5cm×左右366cmある。

たいへん鮮やかな色彩で、一面に金雲が施されている。この金雲によって、時間的・空間的差異が圧縮され、三代将軍・徳川家光の事績が様々に描かれている。

最も大きく扱われているのは江戸城であるが、川越に関する場面もいくつか取り上げられている。川越が、家光ゆかりの地であったからであろう。『徳川実紀』によれば、家光は世子時代からしばしば川越に出遊している。

上に掲載の写真は、川越城が描かれた部分である。城内には樹木が多く、周囲に水濠・土塀がめぐらされている。手前が二の丸、橋を渡ると本丸大手門がある。大手門をくぐって左へ行くと三芳野神社、右へ行くと殿舎が建っている。殿舎

の主なものは、入母屋づくり・こけら葺きのようだ。

城内には、厩舎や、鷹をすえた人物の姿も見られる。鷹狩りを好んだことで知られる家光のことを描いた屏風にはふさわしい。

奥の方にからめて搦手門がある。この搦手門と大手門には、瓦が葺いてある。また、右上隅には土塀に沿って簡単なつくりの櫓がある。これは、富士見櫓であるらしい。

寛永3年（1626）2月の家光川越出遊には、林羅山が随従し、城中高楼からの眺めを詩に詠じているが、その高楼はおそらく富士見櫓のことであろう。

本屏風は、「洛中洛外図屏風」的手法をもって描かれているため、どこまで描写内容が正確かはわからないが、資料の乏しい近世初期の川越城の様子がうかがえる、貴重な資料である。

川越に残る建物ウオッチング

～ 川越の洋風建築と保岡勝也 ～

川越というと蔵造りが有名ですが、その蔵造りの町並みの中に、近代化の象徴である洋風の建物が共存しています。

蔵造りと洋風建築。2つの異なった建築の溶け合う空間に、ふと足を止めてしまうのは私だけでしょうか。

今回は、川越に残る洋風建築に視点をあてて、その見所を紹介していきたいと思います。

札の辻から本川越駅に向かって、一番街の通りを歩いていますと、銅板葺きの青いドームに白壁、そしてバットレス（控柱）のシックな灰色と白色のサラセン模様が美しい建物が見えてきます。現あさひ銀行川越支店のこの建物は、大正7年に新築された第八十五銀行の建物です。設計者は保岡勝也、工事を請け負ったのは、印藤順造です。



あさひ銀行川越支店

地上からランターン（塔家尖針）の先端までの高さは、約25m。当時としては県内でも珍しい洋風建築で、さすがの川越商人も度肝を抜かれたそうです。昭和18年に増築が行われていますが、建設当時、外壁用タイル約163,000枚、金庫部分には煉瓦約160,000枚を三重にして使用したといわれています。職工員の数は延べ約18,000人、工期は2年を費やしたそうです。

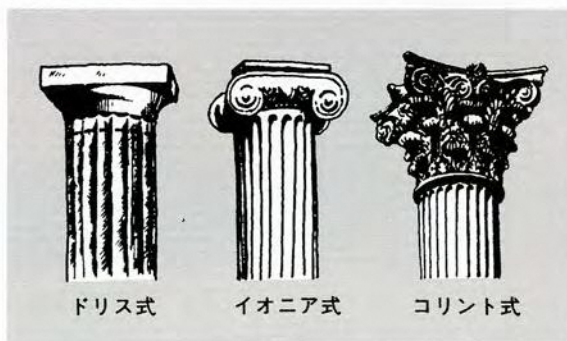
この建物の構造に目を向けてみますと、煉瓦や石を積み上げる組積式や木造モルタルづくりではなく、鉄筋コンクリートづくりの3階建てとなっています。鉄筋やコンクリートは、当時としてはまさに新しい材料であり、

鉄筋コンクリートが普及し出すのが大正9年頃からです。外観は、クラシック調の洋館であるものの、中身は最先端の建物であったと言えます。さらに、特筆すべきは、縦長の窓の内側に、チェーンが上からぶら下がっており、そのチェーンを手繰り寄せることによって、窓の外部上方から鉄板のシャッターが降りるようになっていることです。まさに、新築工事概要に記された「新築建物ハ本館（営業室一棟金庫室一棟）及ヒ附属家一棟計三棟ニシテ本館ノ様式ハ外観内部共近世復興式ニ拠リ主トシテ耐震耐火防賊ニ留意シ虚飾ヲ避ケ堅牢ト実用利便トヲ主眼トシテ建設セリ」を忠実に現した建物であり、設計者の工夫に驚かされます。

昭和54年には、日本建築学会から名建築622選の1つに選ばれました。また、平成8年12月20日付けで登録文化財に指定されています。

さらに、本川越駅に向かって足を進めていきますと、今度は右手に白い洋風の建物が見えてきます。現在は使用されていないこの建物ですが、昭和11年に建築された山吉デパートでした。

西洋館では、オーダーと呼ばれる一定の規則で構成された柱と梁がしばしば用いられます。古代ギリシャの建築に端を発し、ギリシャでは、3つのオーダーを建築に用いました。ドリス式、イオニア式、コリント式の3つがそうです。

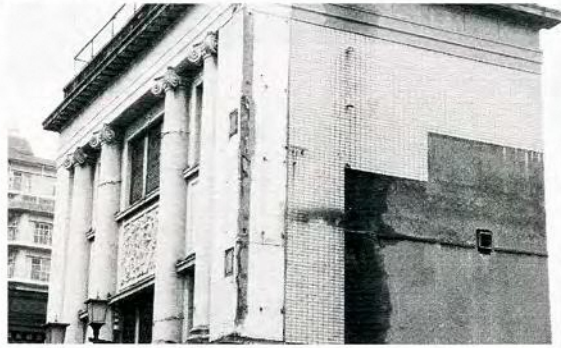


『西洋館を訪ねて』中村哲夫（保育社）より転載

ギリシャ人は建築の柱を1本の木とみなし、そしてキャピタル（柱頭）は木々の葉の形態を模したという説があります。ドリス式の柱頭は刺状の葉の集まりで、イオニア式は植物の巻ひげ、コリント式はアカンサスという植物の葉を象ったといわれています。この建物は、その中のイオニア式のオーダーを模したものが前面の壁面に大きく飾られています。一方、窓に着目してみますと、縦長に3面に仕切った大きな窓が目につきます。中央部が両脇の窓よりも大きく頂部が半円形であるものは、ベニス式とかベネチアンウィンドウと呼ばれ、イタリア生まれの窓の形なのですが、この形を少し取り入れ

たような窓となっています。

この山吉デパートの建物は、今では店頭部分のみが残されているのですが、当時は先ほどのベネチアンウィンドウ風の3連窓やイオニア式のオーダーを象った壁面は、多くの人を魅了したことでしょう。また、1階内部の道路側開口部の上部を見ますと、ステンドグラスがはめ込まれており、当時の華やかな店内の様子も目に浮かんできます。



旧山吉デパート

この建物もあさひ銀行川越支店と同じく、保岡勝也の設計によるものです。昭和11年に安藤組の手によって施工されました。

ところで、これら2つの洋風建築を設計した保岡勝也なる人物は一体どんな人物だったのでしょうか。

保岡勝也は、明治10年1月22日、東京で生まれました。東京帝国大学建築学科で、辰野金吾（日本銀行・東京駅の設計者として有名）教授の指導を受け、明治33年に卒業、そして三菱地所に入社しました。その後、丸の内オフィス街等の建設を手がけましたが、気難しい性格で人付き合いもうまく行かず、明治45年に三菱地所を退職。大正2年には独立し、保岡建築事務所を構えます。第八十五銀行も、この独立してからの作品です。

以後、保岡の目は、記念碑的な大きな建造物から、中小住宅へと向けられていきました。住宅を創る上での主婦の役割を重視し、施主の意向に合わせた和洋折衷住宅づくりを次々と実践していきます。また同時に、『理想の住宅』を始めとし、昭和8年までに14冊の本を執筆し、独自の住宅論を展開。そして、晩年は、数寄屋造りなどの伝統的な建築にも目を向け、伝統性を新しい住宅にどう継承していくかというテーマに取り組みます。

しかし昭和17年に、残念なことに住宅に向けた熱い使命を終えることとなります。

今回は、川越に残る2つの洋風の建物とその設計者に視点をあてて紹介してみました。川越には、まだまだ多くの洋風建築が残っています。みなさんも足を止めてみませんか。

○参考文献

「創業四拾年並ニ本店新築記念誌」 株式会社第八十五銀行

「さいたまの文化財」 赤松 哲彦 瑞光舎
(教育普及係 平岡 健)

太田道真・道灌父子と 宗 祇

本号が読者のお手元に届く7月は、奇しくも川越の中世史に縁の深い太田道灌・連歌師宗祇の祥月である。

太田道灌は、文明18年(1486)7月26日、主君上杉定正のため、相模糟屋(伊勢原市)で非命に倒れた。享年52歳であった。謀反を疑われたためというが、諸説あって真相は明らかでない。

一方の宗祇が、文亀2年(1502)上戸(川越市)・河越城・江戸を経て駿河に向かう途次、箱根湯本に没したのが7月30日のことで、82歳であった。

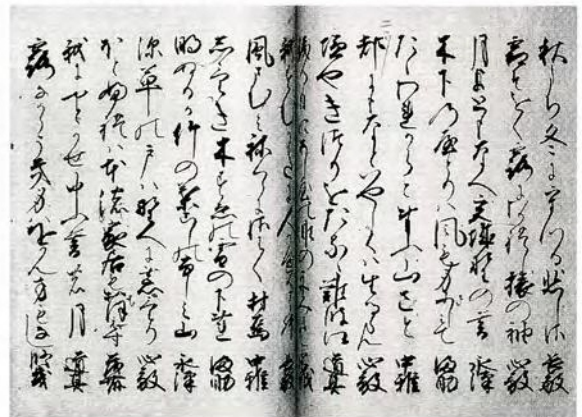
よく知られているように、宗祇は太田道真・道灌父子ら関東の有力武将と交わり、しばしば東国に下向したが、文明元年(1469)あるいは2年の正月の頃河越に遊び、やはり関東下向中の心敬を招いて太田道真が催した連歌会に連なった。この時の作品が「河越千句」である。なお、島津忠夫氏によれば、当時宗祇は江戸の太田道灌のもとに滞在していたという(「連歌師宗祇」)。

この時の連衆は、道真・心敬・宗祇のほかには、鈴木長敏・大胡修茂・興俊(猪苗代兼載)・中雅らであった。

この「河越千句」は、戦国期関東の武将の文芸享受の

さま、また彼らと心敬・宗祇ら有名連歌師との関わりの様子を示すものとして、文学史上重要な作品とされるが、地元では言及されることが少ない。

なお、当館の中世の常設展示室には、伝宗祇筆、室町時代の成立とされる埼玉県立博物館所蔵本を原資料とする「河越千句」が展示してある。



河越千句〈複製〉(原資料 埼玉県立博物館蔵)

柳細工のはなし 杞

柳行李製造講習生募集

埼玉県山林会主催

講習期間 貞正十一年九月二十日 二ヶ月間

講習場所 川越市宮下町喜隆舎工場

申込所 各市町村役場及喜隆舎

終了後 直ニ工賃ヲ給ス自營隨意

◎柳行李製造業(一年中仕事ノ無ク事ノ無ク又費用ハ益多クラブルヨリラダク

天候ニハ關係アリマシテ原料ノ降ク思フ分額アリ

◎家内工業アリテ資本ハナクモ安全ニ自營シ得ル絶好ノ職業デアリマス

◎遊閑ノ者ニハ寄宿ノ設備アリ(寄宿ハ必要ナシ)

喜隆社ピラ

かつて大概の家庭で使われながら、生活習慣の変化や新しい素材の開発により、今日では文字通り「博物館行き」になってしまった品々は少なくない。たとえば、衣類などを仕舞うのに重宝した柳行李もその一つである。

実はかつての川越の地場産業に、この柳行李に代表される杞柳(和名こりやなぎ)細工があった。

大正の初期、川越町当局及び商業会議所は、工業振興の方策として杞柳細工の導入を企図し、原材料の杞柳の栽培普及を図るとともに、大正6年12月には、本場の但馬豊岡から講師を招聘して町立杞柳細工伝習会を開催するなど、各種の奨励策を実施した。

また同じ時期に、町の有志により細工従事者の養成・材料の供給等を非営利的に行うための組織「喜隆社」も設立されている。喜隆社の柳行李製造講習生募集ピラによれば、講習期間は2ヶ月、寄宿舎や講習中の食費補助の制度もあった。

このように杞柳の栽培・細工技術伝習が、当時の川越町の有力者層により積極的になされたのはなぜか。埼玉県農業会編「大正一一年三月 副業調査(其四)」は、次のような点を杞柳栽培・細

工の経済的特点として掲げている。

- ・農閑ヲ利用シテ栽培スレバ足ルヲ以テ労力ノ分配上好都合ナルコト
- ・杞柳ノ加工ハ家庭工芸トシテ老幼婦女子ト雖モ容易ニ習得シ得利益又少カラザルヲ以テ優ニ家業トシテ生活ノ資トナシ得ルコト

また、喜隆社の募集ピラには、「家内工業デアリマシテ資本ハナクモ安全ニ自營シ得ル絶好ノ職業デアリマス」と、利点があたわられている。

前掲の埼玉県農業会の資料により、大正10年頃の埼玉県下の杞柳加工業の状況をみると、組織数は県累計28に対し、現川越市域だけで19を数える。また、従業者数では県累計93に対し、現川越市域67を数える。両者とも現川越市域が県累計の7割前後を占め、杞柳細工が川越地方の特産であったことを如実に物語っている。

このように、川越の特産品の一つであった杞柳細工も、時代の推移とともに、いつしか忘れ去られようとしているが、誠に惜しいことではある。

*杞柳細工製品や関連資料について御存知の方は、当館までお知らせいただければ幸いです。

(T.T生)

平成9年度

利用状況

博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館

平成9年度の、博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館の入館者数を別表に掲げました。

おかげさまで、多くの方々に御来館いただき、3館を合計した年間延べ入館者数は、417,351名になりました。

今後も、皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、御支援のほどお願いいたします。

施設区分	年間入館者数	1日平均入館者数	開館日数
博物館	146,444	521	281
川越城本丸御殿	130,290	449	290
川越市蔵造り資料館	140,617	485	290

分館だより

蔵造り資料館

資料館ホームページ開設

蔵造り資料館では平成9年度より、川越の町並みや観光地・地元の商品を素材に全世界に川越をPRしている川越インターネットモール内に情報発信・広報メディアとしてホームページを開設しました。内容は、川越へお出でくださる御予定の方々のために、情報収集の事前チェックとして、また、帰宅後の再チェックとして、さらに、蔵造りに関心のある方に、お役に立てればという趣旨となっています。具体的には、蔵造り出現の経緯や見どころチェックポイントについて紹介するとともに、資料館が「万文」という煙草卸問屋であった当時のこと、また、その当時の関係する展示資料について紹介しています。

今後は、随時、博物館事業の御案内や博物館・資料館からのお知らせ等を情報として、皆様へお届けしていく予定です。どうぞ、このホームページを御覧いただき、御感想・御要望等を電子メールにてお送りいただけたら幸いです。皆様の御意見に基づきホームページの内容を、さらに充実できればと考えています。

URL <http://www.kawagoe.com>

E-Mail office@kawagoe.com

【身障者対応の“手洗い”導入路改修される】

今回の改修は、平成10年1月に行われたもので、平成7年度実施の中庭整備工事を補完するものです。中庭整備工事については、「博物館だより」第18号の分館ニュースの中で触れましたが、身障者の方々における入館を主眼とした整備でした。

しかしながら、“手洗い”について

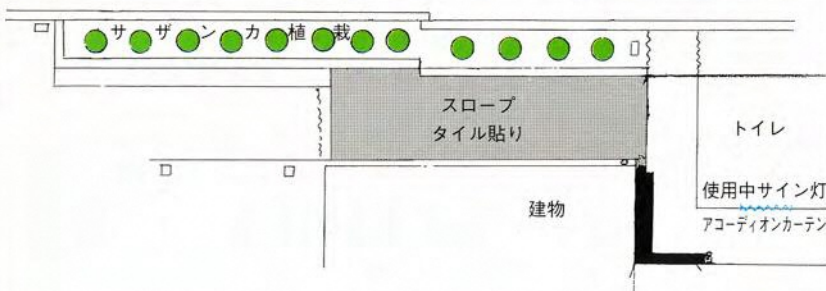
は以前のままで、アプローチの整備も課題となっていました。この改修により、“手洗い”入口にはスロープがつき、新たにサインも整備され、高齢者や子供を含め、入館者に優しい施設として充実してきたといえます。見方によっては、まだまだという御意見もありかとは存じますが、たくさんの方々にお出でいただければ幸いです。



手洗い導入路現況



アコーディオンカーテン

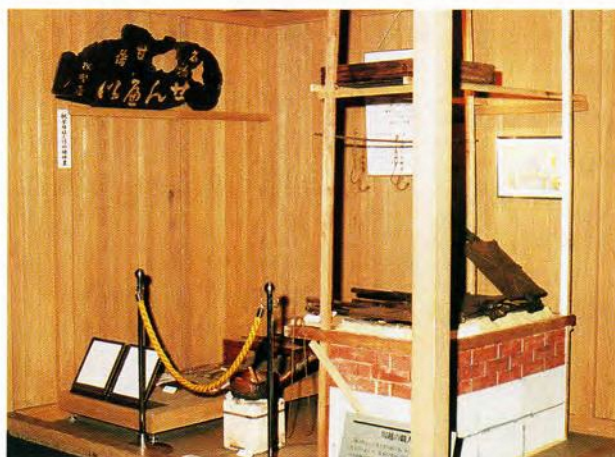


手洗い導入路改修出来形図

常設展示室のコーナーから

「川越の職人」コーナー

平成10年10月25日までの展示



民俗展示室「川越の職人」コーナーでは、いもせんべい製造の職場の様子を展示しています。

いもせんべいは、薄く斜切りしたさつまいもを「カタ」にはさんで焼き、表面に糖蜜を塗っただけの素朴ながらも味わい深いお菓子で、今日あまたある川越のいも菓子の原点ともいべきものです。このお菓子の起源は、諸説あつてはつきりしませんが、日露戦争(1904~05)前後からあつたといえますから、実に90年以上の長い歴史があるわけです。

今回の展示では、仲町で平成9年まで営業していた岸野ロクさんより御寄贈いただいた資料をもとに職場を再現いたしました。

機械化以前の手仕事での製造の様子が御理解いただけると思います。

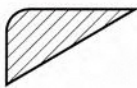
Information

博物館では、様々な催しを年間通じて行っています。

(講) (座) ・ (教) (室) (e) (t) (c) ()

行 事	日 程	申し込み	行 事	日 程	申し込み	
小・中学生の皆様へ… 子ども博物館教室	8/5～2/28 全11回	7/9 (木) 9:00～	「まんが日本史」「芳一物語」他 ☆ 夏休み子ども映画会	7/25、26 8/22、23 (土、日)	事前の申し込みは不要です。 当日、直接会場へお越し下さい。 (時間については、 事前に御確認下さい)	
煉瓦から川越の歴史を探る 博物館歴史講座	8/19、26、 9/2 (水)	8/1 (土) 9:00～	夏休みの宿題に困ったら ☆ 夏休み自由研究相談教室	8/1、2、22、 23 (土、日)		
昔、ここはこんなふうでした 絵・地図をよむ	9/12、19、 26 (土) 9/27 (日)	9/5 (土) 9:00～	ペーゴマ・お手玉・その他 いろいろ ☆ 「昔の遊び」	8/9 (日)		
中世ロマン・いにしへの道 野外博物館教室 「鎌倉みちを歩く」	10/25 (日)	10/1 (木) 9:00～	民俗芸能実演 ☆ 石原の“ささら獅子舞”	11/3 (火)		
江戸時代の川越 パート2 ☆ 歴史講演会	11/21、28、 12/5 (土)	11/4 (水) 9:00～	川越の伝説、他 ☆ 影絵劇	11/29 (日)		11/10 (火) 9:00～
			時代を超えて ～尺八・音の世界～ ☆ ミュージアム・コンサート	12/6 (日)		12/1 (火) 9:00～

* お申し込みは、電話・ファックスで。 変更の可能性もありますので、詳細については、広報「川越」を御覧下さい。お問い合わせは、博物館まで。 ☆印の催しは、参加無料です。



夏休み自由研究相談教室

講座・教室
pick up

夏休みは、いろんなことを学ぶチャンス。

「自由研究やってみようかな。」「夏休みの課題が出ているけど、どんなことをやったらいいかな。」「〇〇を調べたいな。」「この宿題、どうやったらいいの。」

そんな皆さんの声にお応えして、市立博物館では夏休み自由研究相談教室を開催します。小・中学校のベテランの先生方が皆さんの学習の相談にあたります。入館・相談は無料ですので、皆さん来てくださいね。



対 象 小学生以上
相談日 平成10年 8月1日 (土)
 2日 (日)
 22日 (土)
 23日 (日)
会 場 川越市立博物館
 図書閲覧室
時 間 午前10時～午後4時



毎月第2土曜日、博物館で遊んでみませんか？

平成10年 ♠♥♣♦♠♥♣♦♠♥♣♦♠♥♣♦♠♥♣♦

7/11 折り紙を楽しもう

8/8 博物館フォトラリー

9/12 新企画 (未定)

10/10 わらなわ作りをしよう

11/14 手作りおもちゃ(紙相撲)

●時間 午前10時～11時30分
 午後1時30分～3時30分
申し込みは不要です。当日、直接博物館へお越しください。
参加のための入館は無料です。

♠♥♣♦♠♥♣♦♠♥♣♦♠♥♣♦♠♥♣♦♠♥♣♦♠♥♣♦♠♥♣♦♠♥♣♦

年内・特別展示室の催し

○第8回収蔵品展

「子供を育む — 暮らしのなかの人形 —」

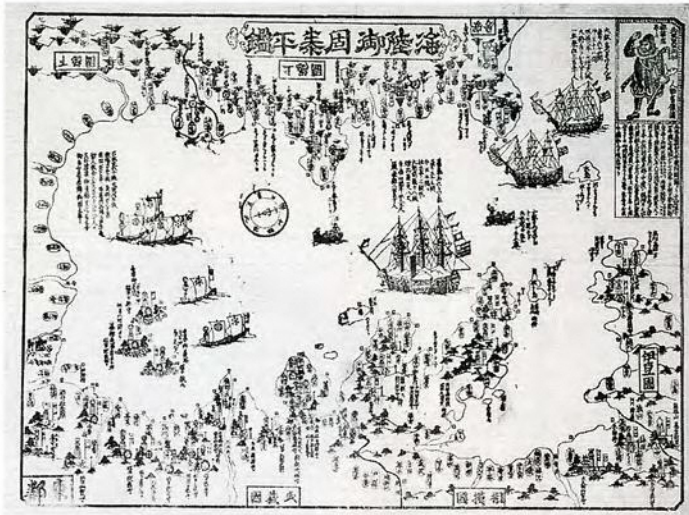
平成10年7月25日～9月13日

※8ページも御覧下さい。

○第13回企画展

「幕末の川越藩」 (仮題)

平成10年10月3日～11月8日



海陸御固泰平鑑

江戸時代も後期になると外国船が日本近海に現れ、幕府に開国を迫るようになりました。川越藩はこの時期三浦半島に領地を有していたため、江戸湾警備という海防政策の第一線に立つことになります。この企画展では、こうした幕末の川越藩の動向を関連資料で紹介する予定です。

無料開館の お知らせ

平成10年 12月6日 (日)	と	市民の日 平成10年 12月1日 (火)	県民の日 平成10年 11月14日 (土)
-----------------------	---	-------------------------------	--------------------------------

には、

川越市立博物館
川越城本丸御殿
川越市蔵造り資料館

の入館料が
無料になります。

図 録 紹 介

〈博物館受付にてお求めいただけます。〉

第12回企画展図録

近世陶磁への招待

—陶磁器からみた江戸時代の暮らし—

1,000円



第11回企画展図録

川越氷川祭礼の展開

1,400円



第10回企画展図録

町割から都市計画へ

—絵地図でみる川越の都市形成史—

1,000円



第8回收藏品展

子供を育む

—暮らしのなかの人形—

平成10年7月25日～9月13日



特別
展
の
展
示
室
観

当館では、市民の方々から数多くの資料を御寄贈いただいています。これらの資料をたくさんの人たちに見ていただくため、毎年收藏品展を開催しています。

今回は、誕生した子供の健やかな成長を願って初節句に飾る雛人形・五月人形に焦点を当て紹介します。また併せて、お食い初め道具や初正月の破魔弓・羽子板、背守り付き産着など子供の成育に関わる資料も展示します。

ご案内

御存知でしたか？
外国語パンフレット

当館の受付では、日本語のパンフレットのほかに、外国語のパンフレットも用意してあります。

英語・スペイン語・中国語・ドイツ語・ハンガール語・フランス語・ポルトガル語の7種類があります。外国からのお客様と来館される際など、お気軽に受付にお申しつけください。



..... 利用のご案内

- ◆開館時間 午前9時から午後5時まで（ただし入館は4時30分まで）
- ◆休館日 月曜日（休日は除く）、毎月第4金曜日（休日は除く）、休日の翌日（土・日曜日は除く）、年末年始（12/28～1/4）、煙蒸期間（7月上旬頃予定）、資料特別整理期間（12月中予定）

◆入館料

区分	博物館	川越城 本丸御殿	川越市 蔵造り資料館	3館共通券 〈博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館〉
大人	200円(160円)	100円(80円)	100円(80円)	300円
学生・生徒	100円(80円)	50円(40円)	50円(40円)	150円
児童	50円(40円)	30円(20円)	30円(20円)	80円

●（ ）内料金は、団体〔20名以上、1名につき〕の場合。

●開館時間・休館日は、3館とも同様。（煙蒸期間・資料特別整理期間は博物館のみ休館）

交通案内

東武東上線・JR川越線 川越駅より
または西武新宿線 本川越駅より
東武バス 「札の辻」下車徒歩8分



発行日 平成10年7月10日

発行 川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番1号 ☎0492-22-5399